

APV8508, APV8104
サンプルプログラム
取扱説明書
Linux, C 版

第 1.0 版 2017 年 08 月

株式会社 テクノエーピー

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡 2976-15

TEL : 029-350-8011

FAX : 029-352-9013

URL : <http://www.techno-ap.com>

e-mail : order@techno-ap.com

－ 目 次 －

| | | |
|-------|------------------------|---|
| 1. | 安全上の注意・免責事項 | 3 |
| 2. | 概要 | 4 |
| 2. 1. | 概要 | 4 |
| 2. 2. | 改訂履歴 | 4 |
| 2. 3. | 環境 | 4 |
| 3. | 取り扱い | 5 |
| 3. 1. | ネットワークの設定確認 | 5 |
| 3. 2. | サンプルプログラムのダウンロード | 5 |
| 3. 3. | プログラムのビルドと実行 | 6 |

1. 安全上の注意・免責事項

日頃、株式会社テクノエーピー（以下「弊社」）製品 APV8508-14, APV8508-12 または APV8104-14, APV8104-12（以下「本装置」）のご愛顧を頂き、誠にありがとうございます。本装置をご使用する前に、この「安全上の注意・免責事項」をお読みの上、内容を必ずお守りいただき、正しくご使用ください。

弊社製品のご使用によって発生した事故であっても、装置・検出器・接続機器・アプリケーションの異常、故障に対する損害、その他二次的な損害を含む全ての損害について、弊社は一切責任を負いません。

禁止事項

- 人命、事故に関わる特別な品質、信頼性が要求される用途にはご使用できません。
- 高温、高湿度、振動の多い場所などでのご使用はできません。
- 強い衝撃や振動を与えないでください。
- 分解、改造はしないでください。
- 水や結露などで濡らさないでください。濡れた手でのご操作もおやめください。
- 発熱、変形、変色、異臭などがあった場合は直ちにご使用を止めて弊社までご連絡ください。

注意事項

- 本装置の使用温度範囲は室温とし、結露無いようにご使用ください。
- 発煙や異常な発熱があった場合はすぐに電源を切ってください。
- 本装置は高精度な精密電子機器です。静電気にはご注意ください。
- 本装置は、ほこりの多い場所や高温・多湿の場所には保管しないでください。
- 携帯電話やトランシーバー等、強い電波を出す機器を近づけないでください。
- 電氣的ノイズの多い環境では誤作動のおそれがあります。
- 本装置の仕様や本書及び関連書類の内容は、予告無しに変更する場合があります。

2. 概要

2. 1. 概要

本装置は TCP/IP 通信を通して、ユーザー作成の C プログラムにて計測制御を行うことが可能です。
本書は、本装置の Linux 環境向けサンプルプログラムの取り扱いについて説明するものです。

※本書の記載内容は予告なく変更することがあります。

2. 2. 改訂履歴

2017年08月31日 第1.0版 初版

2. 3. 環境

以下の環境にて動作確認を行いました。

- (1) OS: CentOS release 6.7(Final)
- (2) コンパイラ: gcc (GCC) 4.4.7 20120313 (Red Hat 4.4.7-16)

3. 取り扱い

3. 1. ネットワークの設定確認

本装置の出荷時 IP アドレスは、192.168.10.128 に設定されています。

プログラムから本装置にアクセスするためには、PC 側は 192.168.10.127 番以下の固定 IP アドレスを設定して下さい。

設定後、ターミナルウィンドウより「ping 192.168.10.128」を実行し、正常に通信ができることを確認しておいて下さい。

3. 2. サンプルプログラムのダウンロード

弊社サンプルプログラムのページより apv8508_linux.zip をダウンロードします。解凍後以下のディレクトリ構成でファイルが生成されます。

```
(解凍先ディレクトリ)
└─apv8508_linux
   └─include      # ヘッダファイル用ディレクトリ
   └─sub          # 共通関数ソース用ディレクトリ
```

説明の都合上、以降の説明では、解凍先ディレクトリとして /tmp にコピーした事を前提とします。実際のコピー先が異なる場合は、適宜そのディレクトリに読替えて下さい。

3. 3. プログラムのビルドと実行

(1) サンプルプログラムのビルドはコマンドラインにて行います。

まず、ターミナルウィンドウを開き、下記のカレントディレクトリを移動するコマンドを実行して、目的のディレクトリに移動します。

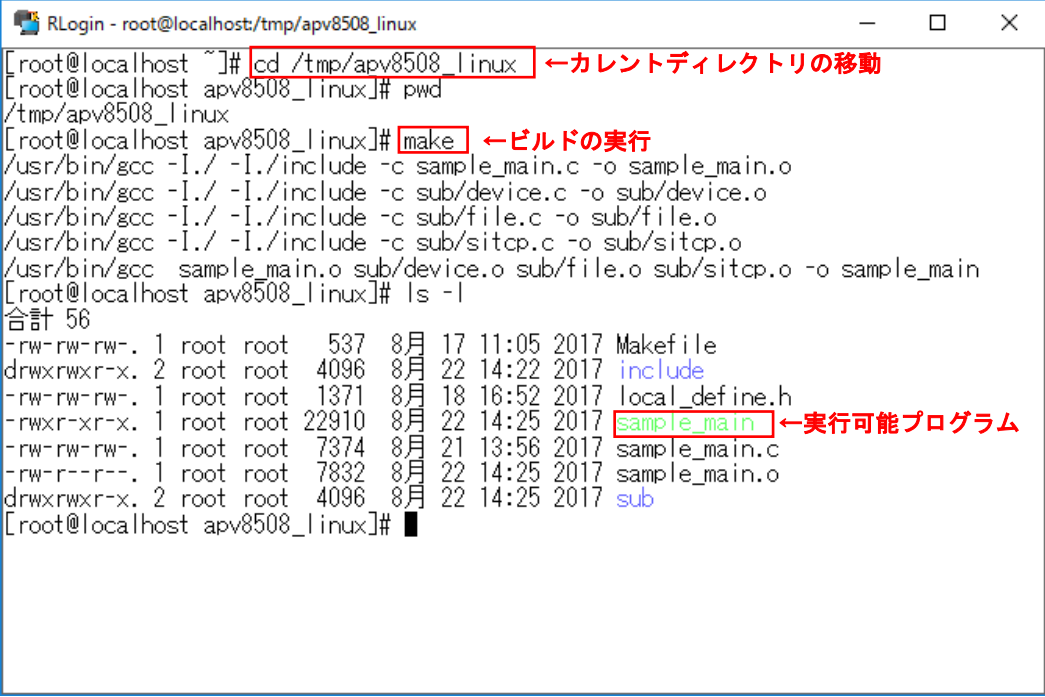
- カレントディレクトリを移動するコマンド： “cd /tmp/apv8508_linux”

(2) 目的のディレクトリに移動したら、下記の通りにビルドを実行します。

- ビルドの実行： “make”

(3) ビルドが終了すると、同じディレクトリに、実行可能プログラムが作成されます。

※下図はターミナルウィンドウにおける「カレントディレクトリ移動～ビルド」までのコマンドラインの入出力の例です。



```
RLogin - root@localhost/tmp/apv8508_linux
[root@localhost ~]# cd /tmp/apv8508_linux ←カレントディレクトリの移動
[root@localhost apv8508_linux]# pwd
/tmp/apv8508_linux
[root@localhost apv8508_linux]# make ←ビルドの実行
/usr/bin/gcc -I./ -I./include -c sample_main.c -o sample_main.o
/usr/bin/gcc -I./ -I./include -c sub/device.c -o sub/device.o
/usr/bin/gcc -I./ -I./include -c sub/file.c -o sub/file.o
/usr/bin/gcc -I./ -I./include -c sub/sitcp.c -o sub/sitcp.o
/usr/bin/gcc sample_main.o sub/device.o sub/file.o sub/sitcp.o -o sample_main
[root@localhost apv8508_linux]# ls -l
合計 56
-rw-rw-rw-. 1 root root 537 8月 17 11:05 2017 Makefile
drwxrwxr-x. 2 root root 4096 8月 22 14:22 2017 include
-rw-rw-rw-. 1 root root 1371 8月 18 16:52 2017 local_define.h
-rwxr-xr-x. 1 root root 22910 8月 22 14:25 2017 sample_main ←実行可能プログラム
-rw-rw-rw-. 1 root root 7374 8月 21 13:56 2017 sample_main.c
-rw-r--r--. 1 root root 7832 8月 22 14:25 2017 sample_main.o
drwxrwxr-x. 2 root root 4096 8月 22 14:25 2017 sub
[root@localhost apv8508_linux]# █
```

図 1 ビルドの手順(コマンドラインの入出力の例)

